

東北復興日記



176

二〇一二年三月十一日、テレビ画面に映し出された東北地方の大きな揺れ、津波の襲来に行き場を失って必死で逃げ惑う人々、次々に流されていく車、家屋、木々…。すさまじい光景に私の鼓動はとめどもなく大きくなっていきました。

こうした非常事態には肝っ玉が据わり、迅速な行動力が

認定NPO法人JKSK
女性の活力を社会の活力に
会長 木全ミツさん



一層被災地に寄り添って

とれる女性こそ、復興の牽引(けんいん)力になっていけるのではないか。直ちに、首都圏に住む志の高い女性十人と話し合いを持ちました。被災地の女性リーダーたちと首都圏の女性エキスパートが固い絆を築き、徹底的に話し合い、知恵を出し合って、雇用や収入につながる事業化を図っていくと、「女性の活力を生かしたJKSK東日本大震災復興支援JKSK結結プロジェクト」を発足させました。「持続性、スピード感、実行力」を合言葉に。

以来、被災地で定期的に一

泊二日の「JKSK車座・交流会」を開催し写真。一二年四月、第三回を宮城県石巻市で開いた時、「ここには特派員もいないし、マスコミは誰も関心を持ってくれません」と現地の女性たちから悲痛な訴えがありました。東京では、震災から一年もたつて、などと無責任なささやきも聞こえ始めているころでした。二日目の意見交換会はテーマの一つとして「震災の風化」を取り上げて議論しました。そして、復興を見届けるまでという覚悟で取り組まれている東京新聞と意見交換。被災地の生々しい現状や、復旧

・復興の取り組みと進捗の様子を、被災地の女性リーダーの皆さんが伝える東北復興日記がスタートし、連載が続いています。読者・友人からは「東北の復興が常に自分の問題として考える習慣をつけてくれている」と意見が寄せられています。これからは一層、被災地の立場の異なる一人一人に寄り添い、全国の方の理解や協力も仰ぎながら、復興完成まで一緒にという気持ちで大切に連載していきたいと思っています。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。